

日揮パラレルテクノロジーズ 採用インターン 課題 3

「情報リテラシーについて」

この課題について

この課題は、あなたの情報リテラシーについて伺うものです。

この課題には正解はありません。また、各々の立場や経験によっても回答は異なります。

すべて記述式となりますので、あなたの考えを教えてください。

課題内容について

課題は、「質問1」「質問2」「質問3」と分かれております。

それぞれ、各問いがありますので、それらについて回答をお願いします。

質問1・質問2は必須課題です。

回答3は任意回答となりますが、回答頂いた場合は加点される場合があります。

記述量について

記述する文字数に制限はありませんが、1回答あたり300文字程度を上限とします。

また、必要に応じてリスト等の書式を使っていただいて構いません。

回答方法について

回答は課題のファイルに直接インラインで記入してください。

提出方法について

提出は、提出用Gitリポジトリに、以下のいずれかの形式で提出してください。

- PDF形式(推奨)
- Microsoft Word形式
- Markdown形式

本課題のルール

本課題における生成 AI の利用について

本課題を解くにあたり、生成 AI の利用そのものは問題ありません。

生成 AI を使用した場合、各問に対し必ず以下のいずれかをエビデンスとしてお答えください。

- 使用したサービス、モデル、およびプロンプト
- OpenLLM 等で自作の LLM を使用している場合は、その旨

以下の行為は減点となる可能性がありますので、ご注意ください。

- 生成 AI の出力をそのままコピー＆ペーストしただけのもの
- 生成 AI サービスの共有機能を用いた回答
- 生成 AI サービスの出力を補足するのに必要なだけのエビデンスが提示されていない回答

本課題における他者への質問について

本課題を解くにあたり、他の方への質問や相談は問題ありません。

但し、士業の方などの責任を伴った回答を用いた場合、発言者の氏名・所属・その他登録番号等を記載してください。

例：[弁護士検索（日本弁護士連合会）](#)

| 登録番号 | 氏名/かな | 弁護士会 | 事務所名 | 会員区分 |
|-------|------------------------------------|------|----------|------|
| 37890 | 岡野 武志 > おかの たけし | 第二東京 | アトム法律事務所 | 弁護士 |

課題に対する質問について

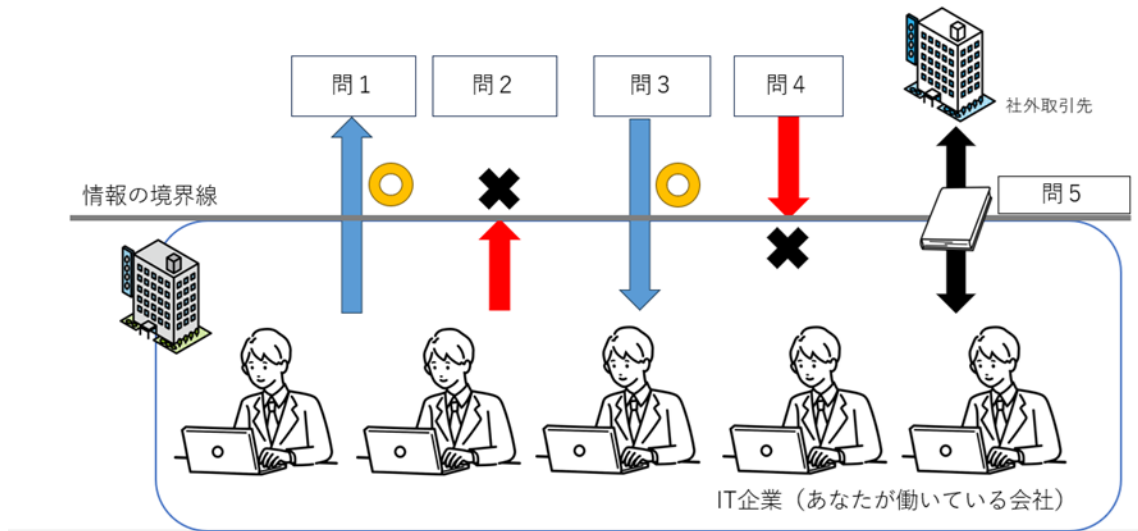
本課題について、課題内容や質問意図への質問はお答え致しかねます。

本課題は、Microsoft Word および Word 形式をインポート可能なサービスが利用が出来れば回答可能な課題となります。

個々の環境のトラブルについては、ルールに則り回答致しかねます。

【必須課題】質問1：情報の境界線

あなたはIT企業に勤めるITエンジニアです。会社の社内外との情報の出入りについて、下図における「情報の境界線」を分界点とし、よい・悪いとなっている理由と、そのケースを挙げてください。



- 問1-1：社内から社外に公開してよい情報とは具体的に何ですか？
 - ①プレスリリース、ホームページ、公式 note、公式 Instagram、公式 X、公式 Qiita
 - ②其他会社の名義で社外公開する情報
 - ③技術面での質問（データマスキングなど、社外秘情報の流出対策は必要）

- 問1-2：問1-1を判断した理由を教えてください

①②については発信媒体を選んで適切に運用することで、リスクよりもメリットを上回らせて運用することができるから。

情報を発信する際には誤った情報を発信するリスク、信頼度を下げるリスクなどを抱えることになるが、同時に認知度や信頼度を上げるメリットも享受できる可能性もある。

社内レビューなど適切なチェックフローを通し、クオリティを高めたうえで特定の媒体で発信することで、リスクよりもメリットを上回らせて運用することができるから。

③についても、社外秘情報流出対策を講じたうえで技術面の質問をすることで、リスクよりもメリットを上回らせて運用することができるから。

- 問 2-1：社内から社外に公開してはいけない情報とは具体的に何ですか？

問 1-1 に記載したもの以外の情報。

- 問 2-2：問 2-1 を判断した理由を教えてください

リスクマネジメントをしていない情報を発信することで、個人情報や企業機密情報といった大切なデータの流出や、誤った情報を発信することによる信頼性の低下などのデメリットが大きくなるから。

- 問 3-1：社外から社内に取り入れても良い情報とは具体的に何ですか？

発信元が明らかになっており、かつその発信元が信頼できる情報。

(国などの公的機関、教育機関、各種ハードウェア・ミドルウェア・ソフトウェアのベンダー、その分野を専門にしている企業など)

Qiita などの質問サイトの情報。

- 問 3-2：問 3-1 を判断した理由を教えてください

情報の発信内容について責任の所在がはっきりしているため。

- 問 3-3：社内に取り入れる際、その情報について具体的に注意・確認すべき事項があれば教えてください

可能な限り複数の発信元の情報を比較し、情報の内容が正しいことを念入りに確認する。

いつ時点で発信された情報なのかを確認し、古い情報である場合はより新しい情報がないか探す。

他社製品に関する情報である場合、バージョンによって挙動が異なる場合があるため、正しいバージョンに関する情報であることを確認する。

Qiita などの質問サイトの情報については回答者が正しい回答をしているとは限らないため、内容を参考にするに留め、開発物については責任をもって動作確認するようにする。

- 問 4-1：社外から社内に取り入れてはいけない情報とは具体的に何ですか？

責任の所在がはっきりしない情報。匿名 SNS での情報など。

- 問 4-2：問 4-1 を判断した理由を教えてください

情報を取り入れたことによって起こった不利益について、自社で全責任を負うことになるから。

- 問 5：問 1～4 と併せ、社外に情報を発信しようとする際、その情報について具体的に注意・確認すべきルールを策定するとしたら、どのようなルールを作りますか？

①社外の情報を引用する際には引用元を明記する。②発信する内容については社内レビューを通す③発信した日時、発信元を明記する

- 問 6-1：情報のやり取りの手続き

あなたは担当者として、関係企業に業務委託（アウトソース）を行おうとしています。

この際、業務開始までにどのような手続きが必要か教えてください。複数ある場合は、順番に手続きを教えてください。

①契約種別（準委任/請負）を決める②業務内容を決める③委託先を決める④契約期間、報酬を合意する⑤契約書を作成する⑥契約を締結する

※業務内容、納期・契約期間、報酬内容、秘密保持、著作権・知的財産権の帰属、再委託、契約解除条件、反社条項、所轄裁判所、（請負の場合）瑕疵担保期間 必ず盛り込む

- 問 6-2：問 5-1 で挙げた手続きについて、仮定した情報があれば教えてください。ありません。
- 問 7：この質問 1 を答えるにあたって、参照した文献・資料を、全て列挙してください。
 - インターネット上の資料で、既に削除されてしまった資料を参照した場合、[Internet Archive](#) での URL を記載してください。
 - 書籍等を参照した場合、該当する ISBN 番号を併せて記述してください。
 - 同人誌等の自費出版等で ISBN が付与されていない場合、その旨記載してください。
 - その他、ルールに則り必要事項の記入をしてください。

<https://www.fullcastholdings.co.jp/magazine/gyoumuitaku/>

<https://www.freee.co.jp/kb/kb-deals/outsourcing-agreement/#content6>

【必須】 質問 2：AI に関する考え方とリテラシー

昨今の AI（特に ChatGPT 等のテキスト生成 AI）は、すでに人間の知能や処理速度を大幅に上回っており、今後の業務へ多大な影響が見込まれます。それにあたり、ユーザーは生成 AI を含む AI に対するリテラシーを持つ必要があります。

問 1：

生成 AI(例:ChatGPT)を活用することで、今の業務環境やチームの働き方が今後どのように変わると考えますか？

- 問 1-1：業務に生成 AI を導入するメリットを挙げてください
業務の一部を生成 AI に任せることで生産性が上がる可能性がある（質問に回答してもらい、自分の代わりにソースコードを書いてもらう、メールの文面を考えてもらうなど）。アウトプットに対して生成 AI にレビューしてもらうことで品質を上げられる可能性がある。
- 問 1-2：業務に生成 AI を導入するデメリットを挙げてください。
ハルシネーションが起これ、誤った情報を提示される可能性がある。生成 AI が責任を取ることはできないため、アウトプットに問題がないかどうかは人力で確かめる必要がある。
- 問 1-3：問 1-2 のデメリットをメリットにするのに、どのような対策や施策が必要でしょうか？
プロンプトを工夫する、 RAG を使うなどし、回答の根拠となった情報を提示させ、根拠となった情報を人の目でも確認する。
ソースコードを作らせるような使い方をした場合は、動作確認を徹底する。

問 2：

生成 AI（例：ChatGPT）を使用し得られた情報は、誤った情報の可能性があります。これらは「ハルシネーション」と呼ばれ、専門性の高い情報の場合、専門家以外の人間には判断が難しい場合があります。

- 問 2-1：あなたはどのような手順でその誤りに気づきますか？
生成 AI に情報を提示させる際には、回答の根拠となった情報もセットで受け取るようにする。それにより、根拠となる情報を自分の目で確認するタイミングで、生成 AI の情報と比較する際にハルシネーションを発見できる。
- 問 2-2：その誤りについて、どのように修正を行いますか？
まずは生成 AI の情報元が信頼できるか（国などの公的機関、教育機関、各種ハー

ドウェア・ミドルウェア・ソフトウェアのベンダー、その分野を専門にしている企業などであるか)を確認する。情報元が信頼できない場合は生成 AI の利用をいったん中断し、改めて信頼できる情報を人力で探して修正する。情報元が信頼できる場合であっても、可能であれば信頼できる情報を複数集めて比較しながら修正する。

- 問 2-3：以下は実際にハルシネーションが起きたプロンプトおよび生成結果です。問 2-1、問 2-2 を基に、具体的に修正を行う手順を教えてください。

【プロンプト】

カゼをひきました。現在の熱は 37.8℃で、腹痛を伴います。発熱外来を受診し、総合感冒薬・解熱鎮痛剤・胃薬を処方され、安静が指示されましたが、それ以外に回復を早めるために出来ることはありますか？

【レスポンス】

風邪を早く回復させるためには、以下のような対策が有効です：

水分補給を心がける

発熱時には体内の水分が失われやすくなるため、こまめに水分を摂ることが重要です。温かい飲み物やスポーツドリンクなどを選びましょう。

栄養バランスの良い食事

野菜や果物、タンパク質をバランスよく摂取することで、免疫機能をサポートできます。特に、ビタミン C を含む食品が効果的です。

冷水に塩を混ぜて飲む

発熱時には、冷水に塩を混ぜて飲むことで体温が下がり、回復を早めるとされています。1 日に数回飲むことで効果が期待できるでしょう。

部屋の湿度を保つ

加湿器を使ったり、濡れたタオルを部屋に置くことで適度な湿度を保ち、のどや鼻の乾燥を防ぎます。

十分な休息を取る

体力を回復させるために、できるだけ安静にして十分な睡眠を取ることが大切です。

前提として、レスポンスに回答の根拠となった情報（引用元）が提示されていないため、実務であればこの生成結果は使わず、根拠の提示をするようにプロンプト

を修正してやり直す。

どうしてもこの生成結果を修正しなければならない場合は、以下のワードで Google 検索し、信頼できる記事を探してそれぞれの回答の正しさを確認する。

「水分補給 風邪 腹痛」「食事 風邪 腹痛」「冷水 塩 風邪 腹痛」「湿度 風邪 腹痛」「休息 風邪 腹痛」

問 3 : AI の責任

世の中には、AI（機器が自律的に学習し、自律的に判断し実行する機能）を用いた製品やソフトウェア（以下、「製品」）が無数にあります。

- 問 3-1 : AI を用いたどのような製品があるか、列挙してください。
チャットボット、自動運転、翻訳、画像生成
- 問 3-2 : 問 3-1 の製品の中で、以下の課題に適用する製品を 1 つ選んでください。
自動運転
- 問 3-3 : 問 3-2 の製品が、AI 部分を原因とする誤動作を起こし、損害を発生させてしまいました。具体的なケースを想定（仮定）してください。
自動運転中に「天下一品ラーメン」のロゴを「進入禁止」の標識と誤って認識し、道路の真ん中で急停止した。急停止により後続車と衝突し、自車両と後続車両の両方に傷がついた。
- 問 3-4 : 問 3-3 の損害について、民事的に誰が責任を負うべきでしょうか？その理由を併せて記載してください。
以下は登場人物の例です。それ以外にも居る場合は、付け加えて頂いて構いません。

製品の利用者または開発メーカーが責任を負うべき。

理由：製品販売時に「自動運転機能」について自動運転レベル 0～2 の製品として販売していた場合、AI が担うのは運転の補助であり運転の主体は製品の利用者となるので、責任も製品の利用者が負うべき。

製品販売時に「自動運転機能」について自動運転レベル 3 の商品として販売していた場合、製品が利用者に対して介入要求を行ったかどうかで分岐する。製品が「進入禁止の標識かどうか分からないので判断してほしい」と要求しており、利用者が応答していなかった場合は製品の利用者が責任を負うべき。それ以外の場合は開発メーカーが責任を負うべき。

製品販売時に「自動運転機能」について自動運転レベル 4～5 の商品として販売していた場合、運転の主体は製品となるので、開発メーカーが責任を負うべき。

- 問 3-5：問 3-4 の再発防止を行うにあたり、必要な対応は何ですか？
自動運転レベル 0～2 の場合は製品利用者が主体になって運転すること。
自動運転レベル 3 の場合は製品が利用者に適切に介入要求をあげられるようにすること。
自動運転レベル 4～5 の場合は画像認識精度を上げて、天下一品ラーメンのロゴと進入禁止の標識を判別できるようにすること。
- 問 3-6：問 3-5 で何らかの技術的規制を行う場合、その結果その製品を含む AI を用いた業界はどう変わると思いますか？（技術的規制を行わない場合は「なし」と回答してください）
自動運転の場合はすでにレベル別に技術的規制が行われている。業界の変化としては、「レベルが上がることで自動運転できる領域も広がる」というすみわけができたことで、事故のリスクを減らしつつ技術自動運転の実現へのスピードも保っているのではないかと思う。

問 4：

この質問 2 を答えるにあたって、参照した文献・資料を、全て列挙してください。

- インターネット上の資料で、既に削除されてしまった資料を参照した場合、[Internet Archive](#) での URL を記載してください。
- 書籍等を参照した場合、該当する ISBN 番号を併せて記述してください。
同人誌等の自費出版等で ISBN が付与されていない場合、その旨記載してください。
- その他、ルールに則り必要事項の記入をしてください。

<https://www.dir.co.jp/world/entry/solution/rag>

<https://atmarkit.itmedia.co.jp/ait/articles/2403/13/news035.html>

https://aismiley.co.jp/ai_news/ai-use-service-select/

<https://www.macnica.co.jp/business/maas/columns/135343/>

【任意】 質問 3：この課題へのレビュー

この課題は、I Tエンジニアとして必要となる情報リテラシーを問う課題です。
しかし、個々の業界・業務・文化等により、これらの基準は変わることがあります。
また、今後も技術が進歩していくにつれ、これらリテラシーそのものが変わってくる事も考えられます。

その上で、今後弊社の採用課題とするにあたって、この課題をどのような課題に変化させていけばよいか、レビューしてください。

※この課題は必須ではありませんが、回答頂いた場合は加点する場合があります。

今後の技術進歩に合わせてというよりは現状の合わせた案となり恐縮ですが、情報セキュリティに関する意識の確認も追加するのはいかがでしょうか。

「質問1：情報の境界線」にて、意識的に情報を出す/取り入れる際のリテラシーを確認いただいておりますが、サイバー攻撃が増加している昨今では無意識の行動により会社の情報を漏洩させてしまったりする可能性もあります。

受験者が日常的に行っているセキュリティ対策を記述するなどして意識を確認することで、今後多様化、複雑化するであろう攻撃に強い組織にできる可能性があります。

（セキュリティ対策は貴社に入社後の研修などで身に着けてもらう方針であったりしたら不要かもしれません。）

<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/measures/everyday.html>